# 第４講　２０１７年度 試行調査 第５問（漢文）

**第５問**　次の【文章Ⅰ】は、殷王朝の末期に、周の西伯が呂尚（太公望）と出会った時の話を記したものである。授業でこれを学んだC組は太公望について調べてみることになった。二班は、太公望のことを詠んだ佐藤一斎の漢詩を見つけ、調べたことを【文章Ⅱ】としてまとめた。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問い（問１〜７）に答えよ。なお、返り点・送り仮名を省いたところがある。

**【文章Ⅰ】**

呂尚蓋嘗(1)窮困、年老矣。以漁釣奸(注1)周西伯。A西伯将出猟卜之。曰、「所獲非龍、非彲、非虎、非羆、所獲覇王之輔。」於是周西伯猟。果(ア)遇太(注2)公於渭(注3)之陽。与(2)語大説曰、「自吾(注4)先君太公曰、『当(イ)有聖

メモ欄

人適周。周以興。』B子真是邪。吾太公望子久矣。」故号之曰太公望。載与倶帰、立為師。

（司馬遷『史記』による。）

（注）
1 奸 —— 知遇を得ることを求める。
2 太公 —— ここでは呂尚を指す。
3 渭之陽 —— 渭水の北岸。渭水は、今の陝西省を東に流れて黄河に至る川。
4 吾先君太公 —— ここでは西伯の亡父を指す（なお諸説がある）。

メモ欄

【文章Ⅱ】

# 佐藤一斎の「太公垂釣の図」について

平成二十九年十一月十三日
愛日楼高等学校二年C組二班

## 太公垂釣図

佐藤一斎

謬（あやま）リテ被（れ）ニ文王ニ載セ得テ帰ラ一
一（いつ）竿（かん）ノ風月与（よ）レ心違（たが）フ
想（おも）フ君（ガ）牧（ぼく）野（や）鷹（よう）揚（やう）ノ後
夢ハ在（ラン）ニ磻（はん）渓（けい）ノ旧釣（てう）磯（き）ニ一

不本意にも文王によって周に連れていかれてしまい、
釣り竿一本だけの風月という願いとは、異なることになってしまった。
想うに、あなたは牧野で武勇知略を示して殷を討伐した後は、
磻渓の昔の釣磯（つりいそ）を毎夜夢に見ていたことであろう。

幕末の佐藤一斎（一七七二〜一八五九）に、太公望（呂尚）のことを詠んだ漢詩があります。太公望は、七十歳を過ぎてから磻渓（渭水のほとり）で文王（西伯）と出会い、周に仕えます。殷との「牧野の戦い」では、軍師として活躍し、周の天下を盤石のものとしました。しかし、その本当の思いは？

C 佐藤一斎の漢詩は、**【文章Ⅰ】**とは異なる太公望の姿を描きました。

ある説として、この漢詩は佐藤一斎が七十歳を過ぎてから昌平坂学問所（しょうへいざか）（幕府直轄の学校）の教官となり、その時の自分の心境を示しているとも言われています。

〈コラム〉
**太公望＝釣り人？**
文王との出会いが釣りであったことから、今では釣り人のことを「太公望」と言います。**【文章Ⅰ】**の、西伯が望んだ人物だったからという由来とは違う意味で使われています。

**狩野探幽（かのうたんゆう）画「太公望釣浜図」**
日本でも太公望が釣りをする絵画がたくさん描かれました。

**問１** 波線部(1)「嘗」・(2)「与」の読み方として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［1］・［2］。

(1)「嘗」［1］
① かつて
② こころみに
③ すなはち
④ なめて
⑤ なんぞ

(2)「与」［2］
① あたへ
② あづかり
③ ここに
④ すでに
⑤ ともに

**問２**　二重傍線部(ア)「果」・(イ)「当」の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［３］・［４］。

(ア)「果」［３］
① たまたま
② 案の定
③ 思いがけず
④ やっとのことで
⑤ 約束どおりに

(イ)「当」［４］
① ぜひとも～すべきだ
② ちょうど～のようだ
③ どうして～しないのか
④ きっと～だろう
⑤ ただ～だけだ

**問３** 傍線部A「西 伯 将 出 猟 卜 之」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は [5]。

① 西 伯 将㆓出㆑猟 卜㆒㆑之　　西伯将に猟(か)りに出(い)でて之を卜(うらな)ふべし

② 西 伯 将 出 猟 卜㆑之　　西伯の将出でて猟りして之を卜ふ

③ 西 伯 将 出㆑猟 卜㆑之　　西伯将(は)た猟りに出でて之を卜ふか

④ 西 伯 将㆑出㆑猟 卜㆑之　　西伯猟りに出づるを将(ひき)ゐて之を卜ふ

⑤ 西 伯 将㆓出 猟㆒卜㆑之　　西伯将に出でて猟りせんとし之を卜ふ

**問４** 傍線部B「子 真 是 邪」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［６］。

① 我が子はまさにこれにちがいない。
② あなたはまさにその人だろうか、いや、そんなはずはない。
③ あなたはまさにその人ではないか。
④ 我が子がまさにその人だろうか、いや、そんなはずはない。
⑤ 我が子がまさにその人ではないか。

**問５**　**【文章Ⅱ】**に挙げられた佐藤一斎の漢詩に関連した説明として正しいものを、次の①～⑥のうちから、**すべて**選べ。解答番号は 7 。

① この詩は七言絶句という形式であり、第一、二、四句の末字で押韻している。

② この詩は七言律詩という形式であり、第一句と偶数句末で押韻し、また対句を構成している。

③ この詩は古体詩の七言詩であり、首聯（しゅれん）、頷聯（がんれん）、頸聯（けいれん）、尾聯（びれん）からなっている。

④ この詩のような作品は中国語の訓練を積んだごく一部の知識人しか作ることができず、漢詩は日本人の創作活動の一つにはならなかった。

⑤ この詩のような作品を詠むことができたのは、漢詩を日本独自の文学様式に変化させたからで、日本人は江戸時代末期から漢詩を作るようになった。

⑥ この詩のように優れた作品を日本人が多く残しているのは、古くから日本人が漢詩文に親しみ、自らの教養の基礎としてきたからである。

問６ 【文章Ⅱ】の□で囲まれた〈コラム〉の文中に一箇所誤った箇所がある。その**誤った箇所**を次の**A群**の①～③のうちから一つ選び、**正しく改めたもの**を後の**B群**の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 8 ・ 9 。

**A群** 8

① 文王との出会いが釣りであった
② 釣り人のことを「太公望」と言います
③ 西伯が望んだ人物だったから

**B群** 9

① 文王が卜い(うらない)をしている時に出会った
② 文王が釣りをしている時に出会った
③ 釣りによって出世しようとする人のことを「太公望」と言います
④ 釣り場で出会った友のことを「太公望」と言います
⑤ 西伯の先君太公が望んだ人物だったから
⑥ 西伯の先君太公が望んだ子孫だったから

**問７**　**【文章Ⅱ】**の傍線部Ｃ「佐藤一斎の漢詩は、**【文章Ⅰ】**とは異なる太公望の姿を描きました。」とあるが、佐藤一斎の漢詩からうかがえる太公望の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は **10** 。

① 第一句「謬りて」は、文王のために十分に活躍することはできなかったという太公望の控えめな態度を表現している。
② 第一句「謬りて」は、文王の補佐役になって殷を討伐した後の太公望のむなしさを表現している。
③ 第二句「心と違ふ」は、文王に見いだされなければ、このまま釣りをするだけの生活で終わってしまっていたという太公望の回想を表現している。
④ 第二句「心と違ふ」は、殷の勢威に対抗するために文王の補佐役となったが、その後の待遇に対する太公望の不満を表現している。
⑤ 第四句「夢」は、本来は釣磯で釣りを楽しんでいたかったという太公望の望みを表現している。
⑥ 第四句「夢」は、文王の覇業が成就した今、かなうことなら故郷の磻渓の領主になりたいという太公望の願いを表現している。

## ■ 2017年度 試行調査

| 問題番号 | 設　問 | 解答番号 | 正　解 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 第５問 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 2 | 5 | |
| | 2 | 3 | 2 | |
| | | 4 | 4 | |
| | 3 | 5 | 5 | |
| | 4 | 6 | 3 | |
| | 5 | 7 | 1, 6 | ＊1 |
| | 6 | 8 | 3 | ＊2 |
| | | 9 | 5 | |
| | 7 | 10 | 5 | |

（注）
＊1は，過不足なくマークしている場合のみ正解とする。
＊2は，両方を正しくマークしている場合のみ正解とする。

# ■現代語訳

【文章Ⅰ】

呂尚〔＝太公望〕は思うに以前（生活に）困窮し、年老いていた。魚釣りをしていて周の西伯に知遇を得ることを求めた。西伯は狩りに出ようとしてその成果を占った。（占いに）出たのは、「獲物は龍ではなく、雨竜〔＝伝説上の竜、雌の竜などの説がある〕ではなく、虎ではなく、ヒグマでもなく、獲物は覇王の補佐（となる人物）である」と。そこで周の西伯は狩りをした。案の定（西伯は）呂尚に渭水の北岸で出会った。ともに語って（西伯は）大いに喜んで言うには、「私の先君太公〔＝西伯の亡父〕から、『聖人がいてきっと周に行くだろう。周はそれにより強力になるだろう』と言われている。あなたはまさにその人ではないか。私の（亡父）太公があなたを望むことは昔からだ」と。よって呂尚を称して太公望と言う。（西伯は）車に（太公望を）乗せてともに帰り、（太公望を）取り立てて軍師とした。